

### 3 路面電車活用に向けた事業内容

#### 3-1 路面電車を活用して目指すまちの姿

##### (1) 路面電車の特性・特長を生かしたまちづくりへの活用

路面電車は利便性が高いということだけではなく、まちの個性や賑わいを創出するといった特性を生かすことで、「高齢社会への対応」や「都市の活性化」等のまちづくりに有効活用することにより、札幌市全体の活性化への貢献が期待できます。

#### ○高齢者に優しいまちづくり

路面電車は、路線や行き先が「わかりやすく」、定時性もあり、気軽に地上から乗降でき、誰もが使いやすい乗り物です。

移動の「手軽さ」「安心感」もあるため、高齢者等の気軽なまち歩きや外出を促します。



#### ○魅力と賑わいのある都心のまちづくり

駅間距離が短い路面電車は、広い範囲に点在するさまざまな施設を面的に結ぶことで、便利な地域を拡大します。

デザイン性に優れた車両や施設が、通りの個性を演出するなど、沿線に新たなまちの魅力を形成していきます。



#### ○観光振興など活力あるまちづくり

路面電車は、軌道や停留場が地域の目印となるなど、土地勘のない観光客も含め、誰もが利用しやすい交通機関です。

観光客の移動を支えることや回遊行動の誘発など、まちに多くの賑わいを運びます。



#### ○環境負荷を抑えたまちづくり

路面電車は、CO<sub>2</sub>の排出量が少なく、まちの中で有害な排気ガスを出さないほか、使いやすい交通機関であるため、過度に自家用自動車に依存しない、歩いて暮らせるまちづくりの実現に貢献します。



## (2) 路面電車活用の3つの視点と重点取組

路面電車活用の具体的な取組としては、市民議論やこれまでのさまざまな検討を踏まえ、都心の核となる3地区（札幌駅周辺、大通、すすきの）を結ぶ路線の延伸が必要であり、その第一歩として、大通とすすきのの2地区をつなぐ駅前通での路線のループ化を図ります。

ループ化にあたっては、活用の3つの視点から、駅前通でのループ化を含む以下の5つを重点的に取組めます。また、駅前通に多くの交流を生み出すさまざまな取組を進め、人が主役の魅力あるまちを目指します。

5つの取組のうち、軌道運送高度化事業として、「新型低床車両の導入」「既設線のバリアフリー化」「制振軌道化」を図り、ループ化の整備を行います。

### ◆人の活動を支え促す交通環境づくり

路線のループ化、新型低床車両の導入、施設のバリアフリー化などにより、多くの人の「利便性向上」を図るとともに新たな移動の誘発や外出機会の拡大を目指します。

- ・駅前通での歩道際を走行する路線の整備(サイドリザベーション方式による路線のループ化)
- ・ループ化の実現までに3両の新型低床車両を導入
- ・既設線のバリアフリー化やICカード導入等による機能向上

※なお、新型低床車両の導入(平成32年度までに11両)、既設停留場のバリアフリー化と制振軌道化については、軌道運送高度化事業として整備を行います。

### ◆人をひきつける魅力的な空間づくり

デザイン性を重視した新型車両や施設等により、沿線の魅力を高め、札幌らしい人をひきつける魅力的な景観を創り出す「都市空間整備」を目指します。

- ・車両や施設、街路空間等のトータルデザインの導入

### ◆人の交流と新たな賑わいづくり

地域の魅力を伝える情報発信や、イベントとの連携などを積極的に行い「活力の創出」を図り、人々の交流を活発にし、賑わいづくりを目指します。

- ・電停からの地域の魅力発信と沿道空間の利活用における地域との連携

### 3-2 5つの重点取組の具体的内容

#### (1) 路線のループ化

- 都心のにぎわいの軸である駅前通で西4丁目停留場とすすきの停留場間を結び、路線をループ化します。
- 利用者の利便性と路面電車のまちづくりへの活用という観点から、新たに整備する駅前通では歩道際を走行する整備(サイドリザベーション方式)を行うとともに、狸小路付近には新しい電停を設置します。

#### 期待される効果

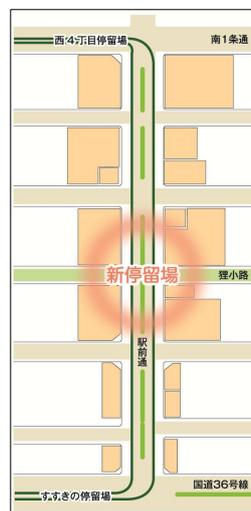
- ・ ループ化により、既設線沿線の全ての施設へ最短でアクセスできるようになるなど、回遊性が向上します。
- ・ サイドリザベーション方式により、新しい電停では誰もが気軽に歩道から乗り降りできることで利便性が高まるほか、歩道上の停留場を人が賑わう交流空間としていくことで、都心のまちづくりに貢献できます。
- ・ 駅前通は歩行者天国や地域のイベントが数多く行われており、都心の賑わいの軸である駅前通でのループ化や魅力的な新型低床車両等が、集客効果を高めるとともに、観光客を含む多くの人々のまち歩きなど、都心全体のさまざまな人の活動を支えることにつながります。

#### スケジュール

平成 24・25 年度に実施設計等の詳細な検討を進めるとともに、法律で定められている各種手続を行います。

#### さらなる取組の実施

駅前通に多くの交流を生み出し、シンボルストリートとしての魅力をさらに高めることを目指し、車から人を中心としたまちへ向けた施策の検討を進めます。



## (2) 新型低床車両の導入

○運転開始後 50 年以上を経過した老朽車両の更新に併せ、新型低床車両をループ化の実現までに 3 両導入します。

### -新型低床車両の特長-

- ・ バリアフリー対応で、既設の停留場との段差は大幅に縮まります。
- ・ 定員は現在の車両よりも 2 割程度増加します。
- ・ 優れた加速及び減速の性能を有しています。

### 期待される効果

- ・ バリアフリー対応で段差が少なくなるため、高齢者をはじめ多くの利用者にとって利便性が向上します。
- ・ 定員の増加による車内混雑の緩和や、冷房機器等の機能性の充実により、快適性が向上します。
- ・ 魅力的なデザインの車両等の導入や交通機関としての利便性の向上により、市民や観光客の新規需要が期待されます。
- ・ 定時性の確保、速達性の向上が図られるとともに、快適性が確保されます。

### スケジュール

- ・ 平成 24 年度に 1 両購入し、平成 25 年度に試験運行などを行ったのち本格運行を開始し、その後、平成 26 年度にはさらに 2 両購入することにより、ループ化の実現までに合計 3 両を導入します。また、本計画の期間である平成 32 年度までには、合計 11 両を導入します。

### さらなる取組の実施

- ・ 札幌市の車両は、30 両(ササラ電車を除く)のうち 24 両が運転開始後 50 年を経過し老朽化しています。ループ化の実現までに新型低床車両を 3 両導入した後も、計画的に新型低床車両を導入します。



### (3) 既設線の機能向上

- 低床車両の導入にあわせて、すべての停留場のバリアフリー化を進めます。
- 老朽化したレールを計画的に更新し、振動等を抑えるレールへ改良します。
- ICカード「SAPICA」を導入し、乗り降りをスムーズにします。

#### 期待される効果

- ・ 停留場の幅が 1m 程度から 2m 程度となるほか、新型低床車両との段差も少なくなり、バリアフリー化が図られます。
- ・ 停留場の幅を広げるにあたっては、既設線で予定されている道路の拡幅事業と連携することで、歩道も含めたバリアフリー化が推進されるとともに、交通の円滑化が図られます。
- ・ レールの改良により、車両の振動や騒音が抑えられ、乗り心地が向上します。
- ・ 1 枚の IC カードで地下鉄やバスとの乗継が可能となり、これまでよりも短時間でスムーズに乗降車することができるようになります。

#### スケジュール

- ・ 既設線の停留場のバリアフリー化については、道路の拡幅事業のスケジュールに合わせて平成 27 年度頃から実施します。
- ・ 地下鉄で導入されている IC カードの路面電車・バスとの共通利用は、平成 25 年度に実施します。

#### さらなる取組の実施

- ・ 路面電車の運行速度の向上に向けた電車優先信号の増設を検討するほか、各停留場においては、電車の現在位置や到着予想時間などの情報を電光掲示板や音声等で知らせるシステムの導入の検討を進めます。
- ・ IC カードの公共施設や商業施設との連携による利用を促進するとともに、よりスムーズに乗り降りできる改札方法などを検討し、利用者サービスの一層の向上を目指します。



#### (4) トータルデザインの導入

- 新型低床車両や新たに整備する停留場・架線柱等を、共通のコンセプトのもとで、機能面も含めてデザインします。
- 街路灯等も含めた街路空間のほか、市民、企業との協働による多様な空間活用を促す手法や枠組みをデザインします。

#### 期待される効果

- ・ 札幌にしかないデザイン性に優れた車両の走る街並みが観光客を含む多くの人をひきつけるなど、都心に創られる新しい風景が札幌の新たな魅力となります。
- ・ 市民、企業との協働による取組を通じ、多くの市民に愛着を持ってもらうことで、路面電車の利用促進や市民活動の活性化が図られ、路面電車を支えていくことにつながっていきます。

#### スケジュール

- ・ これまで検討されたデザインイメージやコンセプトをもとに、駅前通の現在の利用状況や無電柱化された景観、地域の意向も踏まえて、ループ化実現に向けて停留場・架線柱等や街路灯も含めた街路空間イメージや、市民、企業との協働による活用手法を平成 24 年度から具体化していきます。

#### さらなる取組の実施

- ・ ループ化が実現した後も魅力的な空間整備を展開していくとともに、市民や企業と協働する活動を生み出していくことで、市民等の利用促進のほか、札幌の新しい価値を創造できるような魅力的な都市空間の実現を目指します。

